

## 臓器移植者から

### No. 2

ドナー家族の皆様へ

移植を受けてから3ヶ月が過ぎました。

このたびご家族の皆様には、本当に深い悲しみの中、臓器提供という尊いご決断をいただき、心より感謝申し上げます。

私は20歳の時にI型糖尿病と診断されました。

「治る病気ではなく、一生インスリンを打たなければならない」と告げられました。それから30年間、私はインスリンによって命を繋いできました。食前の血糖測定とインスリン注射が私の生活の一部となりました。

しかし術後には、そのインスリンを、1度も打つ事なくこうして元気に生かされています。

ドナーの方からいただいた膵臓が、お腹の中で力強く私を支えてくれている。そう思いますと、言葉では言い表せない程、ありがたく、深い感動と感謝の気持ちでいっぱいになります。

入院中は、感染症など大変な時もありましたが、先生方や看護師の皆さん、そして移植に携わってくださった多くの方々のおかげで乗り越える事ができました。おかげさまで、その後の経過も、とても順調です。

ご家族の皆様もすでにご存知かと思いますが、私は3年前に腎臓という尊い命の贈り物を移植していただきました。

そしてまた、再びこのようなありがたい幸せに巡り合わせていただいたのです。

本当にありがとうございます。

これからの新しい人生を、お二人のドナーの方と一緒に感謝の心を忘れず、希望を持って、私らしく精一杯生きて行きたいと思います。

時節柄、ご家族の皆様にはくれぐれもお体をお大事になさってくださいませ。

最後に、ドナーの方のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

ありがとうございました。